

# あやとり



発行日：2018年2月28日  
編集・発行：NPO・ACT板橋  
たすけあいワーカーズ  
あやとり広報委員会



## 第2回 介護の日フォーラム ～介護保険サービス 必要な時に必要な人へ～

2017年11月17日横浜かなっくホールにて介護の日フォーラムを開催されました。

2000年に始まった介護保険制度は、介護を社会全体で支えるためにできた制度でした。ところが国は介護高齢者の急増に伴い財源不足が予想されるなどとして、利用者にとっても事業者にとっても使いづらいものへと変わりつつあります。さらには、あやとりのような地域密着で展開する小規模介護事業所の存続自体が危ぶまれています。当事者不在の議論の中で進む介護保険改正案は問題点が多く、当事者である私たちが声を上げていく必要があります。当日、あやとりデイサービス管理者の守屋が小規模介護事業所の代表として壇上に立ちました。

### 地域密着型通所介護（小規模デイ）の必要性について

2015年の介護保険制度改定から小規模デイは、サテライト化するか、地域密着型通所介護へ移行するかを選択を迫られました。あやとりは運営の理念、利用者の状況、スタッフの思いなどを考え、地域密着型通所介護として運営することを決めました。利用者からは「ここへ来ると1日が短く感じる」、「家にいたら何もせずに過ごしてしまうのでつまらない」、「デイに来る日が楽しみ」と多くの声を聴くことができます。スタッフの配置が厚く、目が届き、しっかり個別対応ができる小規模デイは利用者自身も、家族の方も安心して利用していただけたらと考えます。我々介護の現場で働く人間は、リハビリしただけや、医療的な科学的な根拠だけで介護しても、利用者の前向きな気持ちがなければADLの改善や、寝たきりの人が座位になったり歩いたりしないことを知っています。ところが、財務省はさらに介護報酬の削減を求め、厚生労働省はその配分を小規模デイでは取得が難しい加算を中心とした考え方で現場の実態も知らずに机上の空論を展開しているように見えます。これ以上介護報酬を削減されたら、受け入れ先である多くの小規模デイが窮地に追い込まれることは避けられません。

#### 「お年寄りの心を支え、在宅を支え、人が人として最期まで人らしく生きる事」

を目指した時間の提供ができるのが小規模デイであると考えます。

利用者にとって小規模デイは在宅を支える最後の砦であり、我々介護従事者にとっても働き甲斐のある、理想の形がそこにあると考えます。

（守屋 哲）



介護の日フォーラムを皮切りに、2017年12月5日衆議院第2議員会館にて“国会に届けよう 無くすな小規模事業所！”と題し、介護保険制度に係る厚生労働省への要望を届けました。これからも現場の声を届ける為に活動を続けてまいります。

## 活動報告

## おやこ舎

おやこ舎を卒園し、幼稚園に通い始めた Y ちゃんに妹が生まれました。出産のお手伝いで沖縄から上京されていたおばあちゃんが帰られた後、幼稚園の送迎と週3回のおやこ舎を利用されました。

お母様より「初めての運動会を控えて練習に遅れが無く、楽しく運動会当日がむかえられるようにしてあげたい」とご相談があり、**ACT自立援助サービス**をご紹介しました。ぬくもりサービス等も検討されたそうですが、値段よりも、人見知りの強い Y ちゃんが、おやこ舎で慣れたスタッフと楽しく幼稚園に通えるようにと ACT 自立援助サービスをご利用することになりました。近いスタッフが数人手を上げて、快くお受けすることが出来ました。Y ちゃんは私たちのお迎えを毎日笑顔で待っていてくれました。バスを乗り継いで送迎でしたが、人見知りの強かった Y ちゃんが、バスで顔見知りになったおばさんにごあいさつをしたり、帰り道で声をかけてくれたおじいさんにごあいさつしたりする姿を見て、Y ちゃんの成長を身近に感じました。ママからも「体が休まりすごく助かりました。」と感謝のお言葉を頂きました♡

ACT 自立援助サービスは、利益を多く生むものでは有りませんが、会員同士が助け合い、繋がっていくものだなと感じました。人と人のつながりを大切にこれからもケアに努めたいと思います。

(川島)

\*\*\*\*\*

毎年、東洋大学の学生さんたちがインターンシップで、おやこ舎に来てくれます。

若いお姉さんたちに子どもたちは大喜びで、スタッフもとても助かっています。

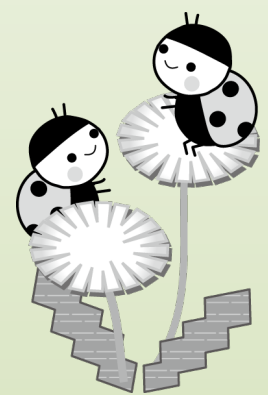
今回は代表して坂本さんに感想を書いていただきました。

\*\*\*\*\*

私たち大学生が子どもたちと関わる機会はそう多くないので、とても貴重な経験をさせてもらっています。大人にとっては毎日の遊びが同じように見えても、子どもにとっては決してそうではなくて、毎日新しい発見や楽しみを見つけているのは微笑ましく思うのと同時に、大人がそのような発想をもつ一度もつことは難しいなとも思いました。

また、一回の訪問は 3 時間なので大学生にとっては短い、子どもたちにとってはとても長い時間なのだなと感じることもできました。この 3 時間の間に、中でも外でも遊んでご飯も食べてお昼寝をしてと、すごくたくさんのかことをして、子どもたちが数多くの経験ができる場所だと改めて感じました。

(東洋大学 坂本さん)



近隣の保育園の園庭開放へ。(左) 前野ホール裏の公園で。(右) どちらも学生さんと一緒に



## デイ



クリスマスソングをみんなで歌い、お隣の保育園ぽむさんと一緒に過ごしたクリスマス。雪の日には雪だるま。寒くてお散歩の行けない日も室内でのレクリエーションを楽しみました。

## ～地域に開かれたつどい～

2月3日、徳丸おとしより相談センターより畑中様、合原様を講師にお招きして、地域のみんなの力を集結する取り組み「協議体」と「介護予防・日常生活支援総合事業」についてお話し頂きました。メンバーを含め18名の参加がありました。

＊「協議体」とは、既にある助け合い活動など地域の情報を共有したり、将来に向けて「自分たちのまちをどのような地域にしたいか」などを話し合ったりする中で活動グループ同士のつながり、見守り運動、趣味や体操等による居場所づくりなど、その地域ならではの支え合いの仕組みづくりを考える会議の総称だそうです。（正式名：助け合い・支え合いの地域づくり会議）町会、自治会、地域住民、おとしより相談センター、民生・児童委員、老人クラブ、商店街、あやとりのように地域で生活支援サービスを提供するNPO、社会福祉法人、社協、民間企業などで構成されています。（福祉の森サロンや民間のサークル等もそれにあたるそうです）。



＊「介護予防・日常生活支援総合事業」とは、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気で自立した生活を営むことができるよう、一人一人の状態や必要性に応じて様々なサービスを提供していく事業だそうです。“元気力チェックシート”で生活力の低下を判定することによって要介護認定を受けることなく迅速に必要なサービスを受けることができるようになりました。状態に応じて様々な短期集中型サービス（元気力向上教室）が用意されています。認知症については兆しに早めに気が付くことが大事で、進行に合わせたサービス（認知症ケアパス）が用意されています。

参加者みんなで「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」をやってみました。

（ご相談、お問い合わせはおとしより相談センターまで。）

## いきいきサークル

地域に開かれたつどいの後に“玄米サークル”を開き、参加者の方もお誘いしました。



メニューは、福豆入り玄米ご飯、新潟県の郷土料理の身欠きニシンと車麴（頭脳食だそうです）とゼンマイの煮物、ちぢみほうれん草の胡麻味噌和え（練り胡麻を加えることでコクを出しました）とお吸い物（とろろ昆布に南高梅の梅干と鰹節をのせ、熱い湯を注いだもの）。差し入れのお漬物もありました。皆でおしゃべりをしながら楽しい時間を過ごしました。17名の参加で鍋いっぱいにつくった煮物もすっかり空っぽになりました。年に数回ですが、自分の食生活を振り返るきっかけになればと活動しています。活動に賛同した1名の方がACT会員に加入して下さいました。



玄米サークルの様子



## テーマ：社会的連帯経済

## 「奪い合う経済から たすけあう経済へ」

～ワーカーズ・コレクティブは社会的経済の担い手～

2017年10月21日～23日、北海道札幌市に於いて開催された第13回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 北海道に参加しました。全国からは706名の参加がありました。

この会議は私たちの働き方、ワーカーズ・コレクティブの活動を多くの方に知っていただく事や、一堂に集まり全国の仲間とそれぞれの活動を共有するなどを目的にしています。

私は8つある分科会の内第4分科会で福祉を担当しました。1年余りの期間、関東1都3県及び北海道の方たちと議論を重ね、テーマに沿った調査活動、事例発表していただく方を選び、原稿の依頼、パワーポイントの準備などを行い、当日に備えました。参加者は117名で8つの分科会の中で最も多く、福祉を行う事業体が多く、何か得るものがあれば、との思いを皆さんお持ちだったと考えられます。発表の内容も充実していました。興味深い事例もあり、意見交換、質問などが多く、会場が一体となっていたと感じました。

詳しい内容は報告集が出ますのでご期待ください。（今澤）



## 傾聴講座に参加して

傾聴とは、「相手を一人の「ひと」として、丸ごと受け止め、相手に寄り添い、真剣に向き合う姿勢（態度）」で、子どもから大人まで誰にでも有効な手法です。

傾聴姿勢心得は、受容、共感的理解、自己一致（言行一致）を相手を中心として考えることです。相手に向き合う時の態度は、五感を働かせすべてを受け止める姿勢・名前を覚える・相手に顔を向ける・頷く・適切な相槌・繰り返し・問う・確認する・相手の気持ちをくみ取り要約し相手に伝える・相手への感情（思い）が動く時、自分のぬくもりある言葉を伝える。

傾聴をすることにより、相手の方は、認められる喜び、前を向く姿勢、生きる自信などが芽生え、関わる「私」は、自己成長に繋がります。皆さんもぜひ傾聴をしてみてください。

（木村）

## あたたかい善意に感謝します

あやとりの活動に賛同し、ご支援をいただきまして、ありがとうございました。

## ご寄付

今澤とも子様・齋藤祥子様

その他、介護用品などたくさんの方々からご寄付をいただきました。ここに御礼申し上げます



## 編集後記

平昌オリンピックの日本選手団の活躍が胸を熱くしたこの冬、インフルエンザの警報が全国で出ています。A型B型が同時に広がり患者増加につながっている可能性があるという。うがい・手洗いやマスク着用などの予防を徹底するように注意しましょう！  
広報委員会一同

〒175-0083 板橋区徳丸 2-30-16

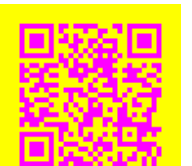
生活クラブ館徳丸 2 階

E-mail : actayato@oak.ocn.ne.jp

TEL : 03-5922-3560

FAX : 03-5922-3561

HP : <http://act-ayatori.com/>





## デイ



クリスマスソングをみんなで歌い、お隣の保育園ぽむさんと一緒に過ごしたクリスマス。雪の日には雪だるま。寒くてお散歩の行けない日も室内でのレクリエーションを楽しみました。

## ～地域に開かれたつどい～

2月3日、徳丸おとしより相談センターより畑中様、合原様を講師にお招きして、地域のみんなの力を集結する取り組み「協議体」と「介護予防・日常生活支援総合事業」についてお話し頂きました。メンバーを含め18名の参加がありました。

＊「協議体」とは、既にある助け合い活動など地域の情報を共有したり、将来に向けて「自分たちのまちをどのような地域にしたいか」などを話し合ったりする中で活動グループ同士のつながり、見守り運動、趣味や体操等による居場所づくりなど、その地域ならではの支え合いの仕組みづくりを考える会議の総称だそうです。（正式名：助け合い・支え合いの地域づくり会議）町会、自治会、地域住民、おとしより相談センター、民生・児童委員、老人クラブ、商店街、あやとりのように地域で生活支援サービスを提供するNPO、社会福祉法人、社協、民間企業などで構成されています。（福祉の森サロンや民間のサークル等もそれにあたるそうです）。



＊「介護予防・日常生活支援総合事業」とは、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気で自立した生活を営むことができるよう、一人一人の状態や必要性に応じて様々なサービスを提供していく事業だそうです。“元気力チェックシート”で生活力の低下を判定することによって要介護認定を受けることなく迅速に必要なサービスを受けることができるようになりました。状態に応じて様々な短期集中型サービス（元気力向上教室）が用意されています。認知症については兆しに早めに気が付くことが大事で、進行に合わせたサービス（認知症ケアパス）が用意されています。

参加者みんなで「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」をやってみました。

（ご相談、お問い合わせはおとしより相談センターまで。）

## いきいきサークル

地域に開かれたつどいの後に“玄米サークル”を開き、参加者の方もお誘いしました。



メニューは、福豆入り玄米ご飯、新潟県の郷土料理の身欠きニシンと車麴（頭脳食だそうです）とゼンマイの煮物、ちぢみほうれん草の胡麻味噌和え（練り胡麻を加えることでコクを出しました）とお吸い物（とろろ昆布に南高梅の梅干と鰹節をのせ、熱い湯を注いだもの）。差し入れのお漬物もありました。皆でおしゃべりをしながら楽しい時間を過ごしました。17名の参加で鍋いっぱいにつくった煮物もすっかり空っぽになりました。年に数回ですが、自分の食生活を振り返るきっかけになればと活動しています。活動に賛同した1名の方がACT会員に加入して下さいました。



玄米サークルの様子